

17 網膜分枝動脈閉塞症 (BRAO) 48例48眼に対する高気圧酸素療法(HBO)の有効性と限界

井上 治¹⁾ 加治屋志郎²⁾ 谷地森隆二²⁾
澤口昭一²⁾

- | | |
|----|--------------------|
| 1) | 琉球大学医学部附属病院 高気圧治療部 |
| 2) | 同 眼科 |

【背景】 BRAOは視力低下が軽度で、視野障害のみが問題となることもあるが、BRAO に対する多数例のHBOの報告は少ない。

【症例】 昭和63年～平成20年の46例(女13), 平均59歳(19～92), 46眼(右28)であった。受診時の症状は、視力低下0.4以下が19眼(光覚なし1, 光覚のみ1, 他0.01以上), 視力低下0.5～0.9が11眼で、視野欠損・中心暗点が20眼でみられ、内5例で視力低下(0.03～0.7)を伴っていた。

【治療】 主な補助療法としてウロキナーゼ静注が30例に、星状神経節ブロックが10例に行われた。HBOは2.4～2.8絶対気圧=60分1～2回/日を平均11.2回(2～30)行った。HBO開始は、発症日(8～12時間)5眼(視力低下3)では、1～2日は16眼(視力低下8), 3日以上(平均8.2日, ~35)は27眼(視力低下19)であった。

【結果】 視力の2段階の改善は、前演題(CRAO)と同様に定義した。

視力低下0.9以下の29眼では、2段階以上の改善が得られたのは3カ月までの経過で22眼(75.8%)であった。

HBO開始が、発症日3眼(60.0%), 1～2日7眼(87.5%), 3日以上12眼(63.1%, 平均10.8日)で視力の改善があった。受診時の視力低下0.4以下では、14眼(82.3%, 光覚無し・光覚のみ各1眼は改善なし), 0.5～0.9では、6眼(60.0%)で改善が得られた。視野の拡大、視野欠損や中心暗点の改善が9眼(45%)に見られた。ウロキナーゼと星状神経節ブロックの併用9眼中6眼(66.6%), ウロキナーゼ単独21眼中13眼(61.9%), 星状神経節ブロック単独2眼中0眼, これらの併用無し12眼中8眼(66.6%)で視力の改善が得られたが、これら補助療法に有意の差は無かった。

【まとめ】 HBOを行うことによりBRAOの75%に視力の改善が得られ、発症より3日以上経過してもHBOの効果が認められた。一方、視野の改善は45%であり、視力が改善しても視野が改善しない場合もあった。ウロキナーゼや星状神経節ブロックを併用することで治療効果に差は無いことからこの結果はHBOの単独の効果と考えられた。

18 網膜分枝静脈閉塞症(BRVO)26例27眼に対する高気圧酸素療法(HBO)の有効性と限界

井上 治¹⁾ 加治屋志郎²⁾ 谷地森隆二²⁾
澤口昭一²⁾

- | | |
|----|--------------------|
| 1) | 琉球大学医学部附属病院 高気圧治療部 |
| 2) | 同 眼科 |

【背景】 網膜分枝静脈閉塞症(BRVO)は、網膜中心静脈閉塞症(CRVO)と比べ予後良好とされるが、高度の視力障害を残す場合もあり、網膜動脈性閉塞症と同様に無視できない主要な眼科疾患となっている。BRVO に対するHBOの治療効果などの報告は少ない。

【症例と方法】 昭和62年からの26例27眼, 平均58歳で、HBOは2.0～2.8ATA=60分/日, 平均20.2回(6～41回)施行した。矯正(小数)視力から、改善: 2段階以上の改善, 不変: 1あるいはマイナス1段階, 悪化: マイナス2段階以上とした。

【結果】 HBO中から4カ月以上の全経過で、2段階以上の改善は55.5%(15/27)で、4段階以上の改善は18.5%(5/27)であった。HBO中は改善36.8%(7/19), 不変52.6%(10/19), 悪化10.5%(2/19), HBO終了時は改善40.9%(9/22), 不変40.9%(9/22), 悪化18.1%, 1カ月後は改善63.1%(12/19), 不変26.3%(5/19), 悪化10.5%(2/19), 2カ月後は改善66%(10/15), 不変20%(3/15), 悪化13.3%(2/15)であった。3カ月後は改善53%(8/15), 不変20.0%(3/15), 悪化26.6%(4/15)であり、4カ月以降は改善50.0%(3/6), 不変33.3%(2/6), 悪化16.6%(1/6)であった。全経過で2段階以上改善した15眼中、HBO終了後さらに視力が増加したのは5眼で、HBO終了時の視力が3カ月以上維持されたのは6眼、4カ月までに視力が低下したのは2眼であった。開始前の視力が0.3以上で、2段階以上の改善が得られたのは38.4%(5/13)で、視力が0.2以下では78.5%(11/14)であった。発症からHBO開始までが1カ月以内では、2段階以上の改善は54.5%(6/11), 1カ月以上では73.3%(11/15)であった。黄斑浮腫は22眼で確認され、2段階以上の改善は、黄斑浮腫が消失した75.0%(3/4), 黄斑浮腫が改善した77.7%(7/9), 黄斑浮腫が改善しなかった57.1%(4/7)であった。

【まとめ】 BRVOではHBOを行った場合、視力の改善が約半数に得られ、その1/3は4段階以上の改善であり、視力は4カ月までの経過で維持され、あるいはさらに視力が向上する場合もある。発症時の視力が悪くても、発症から1カ月以上経過してもHBOはなお有効である。BRVOにおける視力の改善は黄斑浮腫の改善以外の要素も考えられる。